

第八章 インプラント治療

抜歯された部分を補う治療法として、ブリッジ、入れ歯の他に、インプラント治療があります。インプラント治療は顎の骨に人工歯根（インプラント）を埋入する方法です。乳歯、永久歯の次の歯として機能することから“第三の歯”とも呼ばれています。

●インプラントのメリット・デメリット

ブリッジ、入れ歯に比較して、噛みごたえや審美的に優れているインプラントですが、メリット、デメリットを整理してみます。歯科治療の中でも高額な治療ですので、納得していただいたうえで治療を成功につなげたいと思います。

・メリット

治療部位は歯が抜けた部分のみです。ブリッジの場合は、両隣の健全な歯を削ってしまいます。歯は削れば削るほど、歯の寿命が短くなることは「第四章 支台について」で解説させていただきました。入れ歯の場合は、クラスプが引っ掛かる歯がいずれは抜けてしまいます。つまり、インプラント治療はその部分以外の複数本の歯を守ってくれることになります。

また、骨内に直接固定されているため、噛みごたえは自分の歯と遜色ありません。

・デメリット

こんなに素晴らしいインプラントですが骨に埋める以上、手術が必要です。したがってブリッジや入れ歯に比べると、補綴物が装着されるまでに時間を要します。骨質にもよりますが上顎で半年、下顎で3ヶ月が目安になります。

	<p>：ブリッジ 両隣の歯を削って支台としてクラウンで橋渡しをします。歯がない部分の下面が不潔になりやすい。</p>
	<p>：入れ歯 固定式でないため安定に欠け、噛みごたえに欠けます。いずれは両隣の歯が抜けてしまう運命です。</p>
	<p>：インプラント 歯を失った部分のみの治療で済みます。インプラントの埋入手術が必要です。</p>

●インプラント治療が向かない人

インプラントは生体親和性が高いチタンで出来ています。そもそもインプラント治療は、チタンが生体に取り込まれる現象を利用した治療法なのですが、身体の免疫力が落ちるとインプラントを異物と考えはじめ、身体から排除しようとする働きが生まれます。

一般的に健康であれば、ほとんどの方が治療の対象になりますが、次の方

は事前検査や治療、生活習慣改善が必要な場合があります。

・糖尿病の方

糖尿病の方は一般的に免疫力が低くなる傾向にあります。ただし、術前に血糖値のコントロールをして術後も規則正しい生活を心掛けていれば問題なくインプラント治療を受けていただくことができます。

インプラントを希望される方は、事前にスタッフに伝えてください。

・骨粗鬆症の方

骨粗鬆症の方で薬を服用、使用している方をご相談ください。単純に骨質が軟らかい場合には、OAM（大口式）インプラント法で対応できます。

・骨量不足の方

インプラントを埋入する骨量が少ない場合、そのまま手術をすることは難しいことがありました（過去形です）。しかし、当院ではOAM（大口式）インプラント法（第九章参照）で対応できます。

・口腔衛生管理ができない方

インプラントは“第三の歯”です。口腔衛生管理ができなければ、その歯も失うことになります。私たちには患者さんの口腔機能をお守りする義務があります。一緒に頑張りましょう。

・喫煙家

喫煙は口腔内の毛細血管を収縮させるため血流が悪くなります。一般的に血流が悪くなると、免疫力が低下します。また、喫煙家は歯周病になりやすいというデータがあり、口腔内が不潔になりやすく感染しやすい環境になっていると考えられます。インプラント手術を受けられる方は、手術

前から禁煙をして口腔内の清掃に努める必要があります。また、治療後も禁煙されることで、回復した口腔機能を長く快適に保っていただけます。

●インプラントのメンテナンス

歯を失う最大の原因は歯周病です。歯周病の原因が歯周病原菌であることは「第一章 歯周病」でご紹介しましたが、インプラントにも歯周病と同じような症状が現れることがあります。病名はインプラント周囲炎です。インプラントは虫歯にはなりませんが、インプラント周囲炎になると骨の吸収が起こるため、インプラントを支えていることができなくなります。でも心配しないでください、歯周病が予防できるように、インプラント周囲炎も予防できます。

・歯磨き

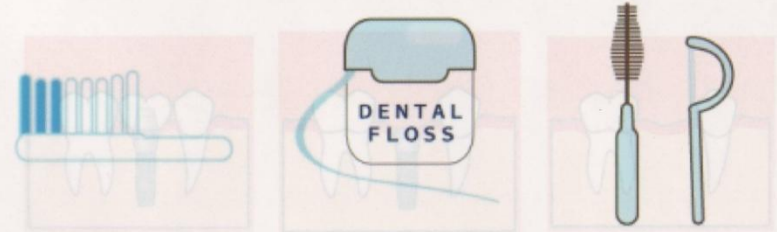
インプラントに限らず、歯科疾患の予防は歯磨きが基本です。

・デンタルフロス

インプラント周囲の清掃には歯ブラシの毛先が届きません。デンタルフロスで丁寧に清掃します。

・歯間ブラシ

インプラントを2本以上埋入した場合、補綴物を連結することがあります。天然歯に接した部分はデンタルフロスが使用できますが、補綴物同士の連結部には歯間ブラシを使用してください。



インプラント治療例



長年歯が抜けたまま長年放置していると、骨は吸収してしまいます。
左の画像はインプラント手術前の口腔内状態です。歯肉上からも骨が細くなっていることが判ります。

このように骨が吸収している患者さんがインプラントを希望された場合、不足した骨を補うために人工骨を使用して増大させるテクニックが必要です。その場合、骨作りとインプラント手術の2回に分けて手術することがありますが、当院ではOAM（大口式）インプラント法で1回の手術で対応しました。

